

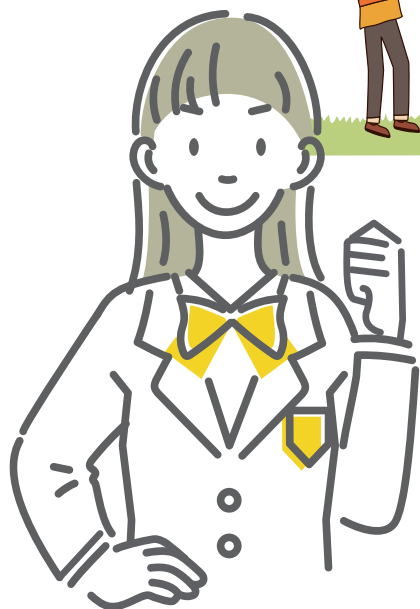
海外教育旅行のすすめ

～再開・回復に向けて～

2022



受け入れ国・地域の状況や
実施校の事例など
ご案内します



国土交通省
観光庁

は じ め に

1972年(昭和47年)、戦後初の海外修学旅行が宮崎県の高等学校で行われ、その時の行き先は韓国でした。以来、海外修学旅行は徐々に増え、行き先もアジアからヨーロッパ、アメリカなど多岐に渡り、頻繁に行われるようになりました。また、海外での短期語学研修旅行などのプログラムも実施されるようになり、これらを総称して海外教育旅行といいます。

近年、高度情報化社会の発展とともにグローバル化が進み、こうした海外教育旅行を行う機運はますます高まり、さまざまなタイプの旅行が全国で広く行われてきました。ところが、2019年末から2020年初春にかけて発生した新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によって、一気に世界の門戸が閉じられ、海外旅行自体がほとんど不可能な状況となりました。2022年現在もその影響下にあります。

一方で、ITを活用したオンライン教育の普及など、新しいムーブメントが起こり、海外の学校との非対面での交流などが活発に行われています。そうしたなか、徐々に新型コロナウイルス感染症対策の規制が解かれ始め、再びリアルな海外教育旅行実施に光明が見え始めてきました。オンラインで海外を知れば知るほど、実際に行って学びたくなる、そうした心の動きは極めて健全であると考えられます。

そこで、私たちは、これまで得てきた知見やノウハウに加えて、いわゆるニューノーマルな世界における海外教育旅行について考え方を整理し、新しいスタンダードを作り上げる必要に迫られています。これまでの安全・安心に加え、世界に通用する公衆衛生の概念を学び、各国・地域それぞれの現時点での考え方の違いなどを事前を知ることが必要です。

本冊子はそうした新しいスタンダードに必要な概念を加味し、生徒たちが安心して世界に触れ、学校教育関係者の皆様が新時代の国際人を育成するための一助になることを目的として作成したものです。

掲載されているのは、海外教育旅行の意義や魅力などの記事、2022年3月時点での各国・地域の受け入れ状況や必要な情報ソースのご紹介、および新型コロナウイルス感染症拡大直前に行われたいくつかの実施事例のご紹介です。

ニューノーマル時代の海外教育旅行実施の参考資料としてお役立ていただければ幸いです。

目 次

はじめに	1
世界を知れば視野が広がる	3
海外教育旅行の意義や魅力	4-5
海外教育旅行の主なプログラム	6
実施までのスケジュール	7-8
受け入れ国・地域のご案内	9-15
安心・安全対策と新型コロナウイルスなどへの対策	16
実施事例のご紹介	17-21
おわりに	22
巻末資料 関連機関の公式サイト一覧	23

※ 本パンフレットは、情報提供を目的として2022年3月に作成したものです。

閲覧される時期によっては、現状に即さないことも予想されます。

掲載する情報については細心の注意を払っておりますが、本パンフレットのご利用に際しては、
ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。



世界を知れば 視野が広がる

海外旅行はおろか、国内においてもいわゆる「おうち時間」を強いられる日々が続きました。しかし、そんな時こそオンラインで、書物で、経験談を聞くことで、世界のことにも関心を向けていたのではないのでしょうか？

まもなく世界を体験する機会が増える時が来ます。現地でのリアルな海外体験で世界を知れば、かならず自身の視野が広がります。



海外教育旅行の意義や魅力



異文化を理解できるグローバル人材の育成

インターネットでの情報収集や世界中の人からのSNSによる情報発信によって、グローバル化はデジタル世界の中で急速に発展しました。一方、2019年に起こった新型コロナウイルス感染症拡大によって、人々がリアルな海外を体験する機会が大きく損なわれたのも事実です。しかし社会が落ち着きを取り戻したとき、次世代を担う人材に求められるのは国際感覚と異文化理解です。これらを身につけるのに実際の海外体験に勝るものはありません。海外の文化に触れ、現地の人々の暮らしを見る。じかに触れ、見るもの全てが若い感性に大きな刺激と影響を与えます。

高校生をはじめとした若い世代が海外体験をすることで広い視野を得ることにつながり、大きく成長できるチャンスとなります。

海外教育旅行への期待や効果

実際に海外教育旅行を実施している高校の先生方に、海外教育旅行への期待やその結果として得られる効果について伺うと、以下のような様々な内容が実感されています。

● 異文化理解、異文化体験、多様性の実感

● グローバルな視野を養う

● 本場での語学体験

● 視野を広げる

● 国際交流

● 情報と実際の違いを知る

● 自分が外国人になることで、それまでのあたり前を覆す

● 将来を生き抜く力を身につける

● 社会に出る前に国際経験を身につける

● 海外旅行を経験させる
(海外に対する心理的不安を緩和する)

● グローバル社会で生きる上で「世界」を実感する

● キャリア学習(学外の第三者との交流)

● アジアの発展を見る、実感する

● 「課題学習」の場やテーマを海外に求める

調査結果にみる意義

“はじめての海外”がグローバル社会の一員としての第一歩になる貴重な機会

海外教育旅行実践校の高校生約2,000名に行ったアンケート調査によると、約半数の生徒は今回の「海外教育旅行」が「初めて(1回目)」の渡航経験でした。なかでも、地方の高校や公立校では7割以上の生徒が「初めて」と回答する例も少なからずみられ、「海外教育旅行」は生徒たちが海外に直接触れるきっかけづくりになっています。

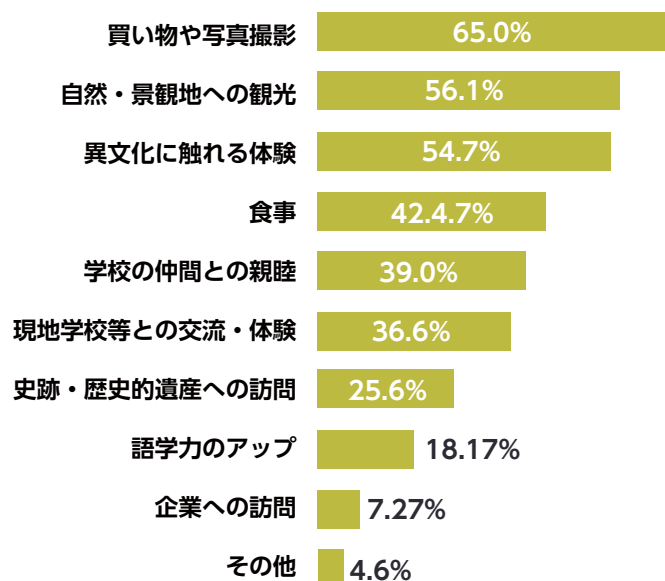
また、高校における海外教育旅行が“はじめての海外旅行”であった約1,000名に、今後の海外への渡航についてたずねたところ、86%と多くの生徒が渡航意向を示しており、海外教育旅行の経験が、海外への興味関心を高め、グローバル社会の一員としての第一歩を踏み出すことにもつながることが示唆されました。

「異文化体験」「世界の同世代等との交流」や「独自プログラム」など その意義を生徒自身が実感

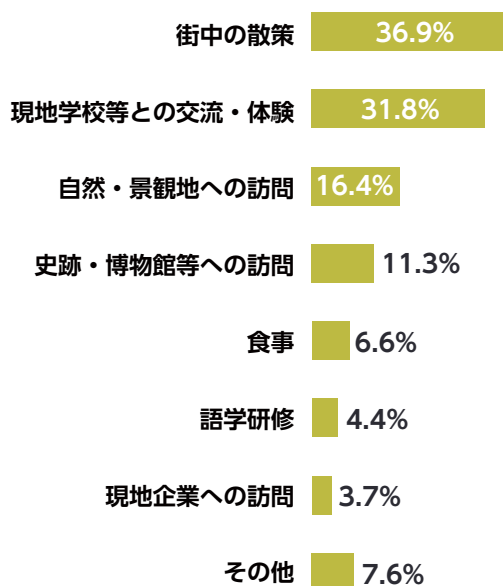
高校生が出発前に楽しみにしていたことは「買い物や写真撮影」「観光」「食事」「(同じ)学校の仲間との親睦」など、非日常への期待でした。

実際に海外教育旅行に参加した生徒たちは、先生方が期待するような有意義な体験、例えば、「街中の散策」などを通じて触れる異文化体験や「現地の学校等との交流・体験」を有意義な活動としてあげました。またその他にも各々の学校が掲げるテーマに沿って、「語学研修」やその他(キャリア教育、平和学習、SDGs、PBL《課題解決型学習》など)の独自プログラムについても、生徒自身が有意義であると受けとめています。

A. 生徒が「出発前に」楽しみだったこと



B. 実際に行ってみて有意義だと感じた活動



出典：観光庁アンケート調査より

海外教育旅行の主なプログラム

学校の考え方や目的によって海外教育旅行には様々なカタチがあります

海外教育旅行は、学校が行う行事として生徒全員で海外を体験する「修学旅行」をはじめとして、「語学研修」「姉妹校交流」などの目的に応じて行われる「研修旅行」「留学」などがあります。

それぞれの学校が考え方や状況を踏まえながら、一定の準備期間を設けて目的によって渡航先の関係機関、旅行会社等と連携することにより充実したプログラムを実施することができます。

海外の教育機関との提携によって多彩なプログラムで学ぶことが可能です

海外への修学旅行や語学研修などにおいては、渡航先の関係機関の情報を取得することが大変重要です。こうした関係機関とのパイプがなくても、国内外の関係機関のホームページ情報や、多くの海外教育旅行を手がけてきた旅行会社などのノウハウを活用することで、海外教育旅行を実現させることが可能です。

海外の教育機関には、外国人向けの各種プログラムを展開しているところもあります。まずはご自分の学校が目指すものにふさわしいプログラム、渡航先を選ぶことが大切です。

観光中心

教育的見地から有効と思われる
遺跡や博物館などを中心に巡る
プログラムなど

体験中心

現地の独特な文化や
習慣・暮らしなどに触れる
プログラムなど

語学研修

主に英語を学ぶプログラム
ホームステイなどを織り交ぜた
プログラムなど

学校・企業訪問

現地の学校や企業に赴き、
見学をしたり情報交換などを行う
プログラムなど

実施までのスケジュール

海外修学旅行の検討・決定から準備、実施、事後対応までの一連の流れをまとめました。
各都道府県ならびに政令指定都市にて定められている修学旅行実施基準を踏まえ、それぞれの時期に着実に課題をクリアすることで、海外修学旅行は成功に近づきます。

検討から決定まで

実施の検討 新学年発足時頃

費用、時期、テーマ、方面など実施の大枠を担当教員で検討開始。都道府県・政令指定都市修学旅行実施基準を必ず確認。

STEP
1

情報収集

安全確認や学校交流の検討などは早めに行う。旅行会社、各国・地域政府観光局・大使館、外務省、教育委員会、関係団体などから情報を得る。

STEP
2

旅行会社の検討

各旅行会社へヒアリングの実施、企画提案書、見積書の作成依頼。

STEP
3

学校内部への報告

検討事項をもとに、学年内や職員会議などで報告。

STEP
4

実施の決定 1 学年の 5 月頃

実施計画にもとづき、海外修学旅行実施を校長もしくは教育委員会が決定。

STEP
5



準備

事前準備

事前学習や安全対策を実施。
実施計画のより細かな内容を詰めていく。適宜パスポート・ビザ(査証)の取得を進める。

教育委員会への申請

必要資料を提出。

実施

実施 2 学年の秋頃

現地での注意事項(ホテル、自主研修、ホームステイ、航空機、公共機関など)と安全対策(けが・病気、パスポートの紛失、盗難など)を徹底し、海外修学旅行を実施。

保護者への説明

保護者会や学年通信などを通して、海外修学旅行の意義と実施要綱を説明。
※時期は各校で異なる場合が多い。

下見

担当教員による下見を行い、より具体的にシミュレーションを行う。安全確保に問題はないか、特にホテルと交通面の状況を確認。訪問先へ挨拶を行う。

最終説明会

生徒・保護者への最終確認として、説明会などを開催。

実施後

事後対応

事後学習を実施。経験を次回に結びつけるために報告書などの形式で残す。

受け入れ国・地域のご案内

世界中に外国人の教育旅行を受け入れる国・地域があり、それぞれ独自の魅力的なプログラムが用意されています。また、事前の打ち合わせで希望にあったプログラムの作成が可能なケースもあります。

※記載のプログラムは新型コロナウイルス感染症拡大以前に実施されたプログラムです。各国・地域の規制により中止されているプログラムが含まれています。





● 基本情報

国・地域名：中華人民共和国

英 語 名：People's Republic of China

主要都市：北京(Beijing)

言 語：中国語

査 証：不要 一般旅券所持者は15日以内の観光は査証不要。

※2022年3月現在査証免除措置停止中

パスポート残存有効期間：入国時6か月以上が望ましい。

● 教育プログラムの特徴やポイント

世界でも有数の世界遺産大国であり教育的、歴史的価値が高い文化遺産が豊富にあります。また、グローバルな交流が盛んな学校が多く、日本との姉妹校も多数あります。

1. 悠久の歴史や、雄大な自然を全身で体験できる
2. 目覚しい経済成長を間近で見ることができる
3. 国際学校が多く学生同士の交流も盛んに行える
4. 体験学習テーマが豊富
5. 交通の利便性が良く、日程が組みやすい

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム（現地フィールドワーク等）

◆農業体験

農業大国中国の郊外で、田園生活を楽しむプログラムです。野菜や果物狩りを体験し、日本では見たことのない農作物に出会えるかもしれません。

◆少数民族について学ぶ

雲南省に住む25の少数民族の文化・風俗を展示、紹介しています。敷地内には各少数民族の村が作られ、民具や衣装が展示され、定期的に各民族の伝統儀式や民族舞踊が行われています。

◆伝統文化体験

日本でも有名な書道名家王羲之、欧陽詢の故郷である中国で書道クラブや書道の愛好者と一緒に書道で交流したり、長い歴史を持つ中国茶道を、茶館でお茶の味と作法を味わい・学ぶといった体験ができます。

学校や企業等訪問

◆学校交流

北京では、海外からの教育旅行の団体を受け入れたいと希望している学校が多く、これらの学校では一般的な教育施設が完備されているだけでなく、積極的に海外からの教育旅行団体の需要について考え、理想的な交流が行われるよう尽力しています。

受け入れ校は北京師範大学附属中学校、北京大学附属中学校、北京月壇中学校、北京市東方職業学校があります。

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム（現地フィールドワーク等）

◆自主行動プログラム

研修テーマを設定し事前に行動計画を立て少人数のグループに分かれて言葉の壁を乗り越えて目的を成し遂げます。韓国は、治安も良く公共交通機関が発達しており、自主行動プログラムには最適な環境です。ソウルの繁華街には日本語を話せる赤いユニフォームを着た観光ガイドが配置されています。

◆体験学習プログラム

異なる文化や習慣を自ら体験することできるさまざまな文化プログラムがあります。

外国の文化に直に触れることで異文化への興味が芽生え、深く知りたいという知的好奇心を刺激して、国際理解を深めることができます。

- ・韓国食料理作り体験～身体に良い料理作りを習う
- ・礼節体験～韓国の伝統的なマナーを学ぶ
- ・伝統音楽体験～伝統打楽器を演奏してみよう



● 基本情報

国・地域名：大韓民国

英 語 名：Republic of Korea

主要都市：ソウル(Seoul)

言 語：韓国語

査 証：不要 90日以内の観光は査証不要。

※2022年3月現在査証免除措置停止中

パスポート残存有効期間：入国時3か月以上あるのが望ましい。

● 教育プログラムの特徴やポイント

日本全国からアクセスしやすい隣国「韓国」は、独自の歴史と伝統文化、学校間交流、平和教育、先端産業などの教育効果の高いプログラムが充実しています。

1. 日本全国の都市からのアクセス可能
2. 日本との深いつながり
3. 一生の思い出になる青少年交流プログラム
4. 多様な体験学習プログラム
5. 万全の受け入れ体制
6. 整備された交通機関



● 基本情報

国・地域名：台湾

英 語 名：Taiwan

主要都市：台北(Taipei)

言 語：中国語

査 証：90泊91日以内の滞在は査証不要。

※2022年3月現在査証免除措置停止中

パスポート残存有効期間：帰国時まで有効なもの。

● 教育プログラムの特徴やポイント

学校交流はもちろん伝統文化や現代カルチャー、食文化や農文化の体験プログラムなど研修素材が豊富です。

1. 日本各地からのアクセスの良さ
2. 日本との深い関わり
3. 豊富な交流と体験プログラム
4. 豊かな食文化
5. 安心で安全な環境

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム（現地フィールドワーク等）

◆自主研修

公共交通機関が発達していて、治安も良い台湾では少人数のグループに分かれて生徒たち自身で行動しながらフィールドワークを行う自主研修が可能です。また、現地の大学生などと交流しながら、ともに市街を巡るブラザー&シスター(B&S)プログラムを組み合わせることも可能です。

◆カルチャー体験

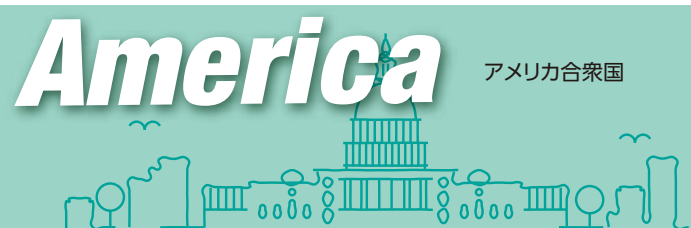
現地のさまざまな文化を実際に体験する学習です。固有の伝統文化だけでなく、長い日台交流の歴史の足跡や進化した文化から、台湾らしい最新カルチャーにも触れます。



持続可能な開発目標へのチャレンジ

◆SDGsテーマ

台湾ではエコへの関心がもともと高く、「台湾の人々の普段の生活から学べるSDGsがたくさんある」ことから、教育旅行のなかでこうした日常の中のSDGsに着目した学習を行うことが可能です。例えば、台湾のゴミ収集車は、毎日音楽を流しながら回収にやってきて、音楽が聞こえると各自が家や会社からゴミを持参し、収集車に入れることで、地面にゴミを落とさないシステムを何十年も続けてきています。



● 基本情報

国・地域名：アメリカ合衆国

英 語 名：The United States of America

主要都市：ワシントン(Washington D.C.)

言 語：英語

査 証：90日以内は査証不要。ただし、電子渡航認証システム(ESTA)の申請(有料)が必要。

パスポート残存有効期間：帰国時まで有効なもの。

(入国時90日以上が望ましい)

● 教育プログラムの特徴やポイント

世界の教育と研究をリードするアメリカ合衆国は語学学校から、2年制大学、4年制大学、大学院にいたるまで数多くの学校があり、ニーズに合わせたプログラムを提供しています。

1. 多民族国家での体験を通じて多様性を学べる
2. 世界最大の経済大国
3. 世界最高レベルの教育機関やスポーツ、エンターテインメントに触れることができる

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム（現地フィールドワーク等）

◆オレゴン州ポートランド

ポートランドは自然とシティライフの共存がうまく融合した場所で、街に出れば至る所に街づくりの工夫が見られます。お洒落なカフェやレストランでの食事、ギャラリーでのアート鑑賞などを楽しむことができます。街中に緑が広がる公園が多いのも特徴です。また視察場所としてオレゴン日系レガシーセンター、市町村街づくり開発視察、小売・リサイクル業視察、駅ビル関連開発業視察などを行います。

短期カスタム研修プログラム

◆モンタナ州

州内の州立大学が2校外国人向け短期カスタム研修プログラムを提供しています。英語プラス何かをテーマに日本の学校や行政(県、市町村がその地域の生徒を選抜)と直接やり取りを進め、それぞれ希望する内容に沿ったプログラムを作っています。引率の先生用のプログラムも別途作成されるため、引率の先生方も期間中、生徒と別に様々なプログラムを受講されています。期間についても2週間から数か月と対応可能で、滞在方法も大学の寮、ホームステイ、ホテルとそれぞれの希望に沿った形で対応しています。



Hawaii

ハワイ (アメリカ合衆国)

● 基本情報

国・地域名: ハワイ州

英 語 名: State of Hawaii (The United States of America)

主要都市: ホノルル (Honolulu)

言 語: 英語 (ハワイ語、ワイキキのホテルやレストラン、
ショップでは日本語が通じる場合もある。)

査 証: 90日以内は査証不要。ただし、電子渡航認証システム
(ESTA) の申請 (有料) が必要。

パスポート残存有効期間: 帰国時まで有効なもの。

(入国時90日以上が望ましい)

● 教育プログラムの特徴やポイント

歴史や文化、そして自然など学習素材が豊富なうえ、英語圏であり、学校交流やホームステイなどのアレンジが可能です。そして治安の良さや温暖な気候など教育旅行に適したポイントが数多くあります。

1. 抜群の立地環境

2. 安心・安全

3. 教育素材の宝庫

4. 整備されたインフラ

5. 豊かな文化・歴史

6. 恵まれた自然環境

7. アロハスピリット

8. 個性的な6つの島

Guam

グアム (アメリカ合衆国の準州)

● 基本情報

国・地域名: グアム

英 語 名: Guam

主要都市: アガニャ (Agana)

言 語: 英語、チャモロ語

査 証: 不要

パスポート残存有効期間: 帰国時まで有効。

(入国時45日以上が望ましい)

● 教育プログラムの特徴やポイント

直行便で行ける日本から最も近い英語圏であり、充実したインフラと豊かな自然と文化が息づくグアムでは、高い学習効果が期待できます。

1. 時差わずか1時間!

2. 日本から最も近い英語圏

3. 充実したスケジュール

4. 1年中が旅行シーズン

5. ユニークな歴史と文化

6. 海と陸でさまざまな体験

7. 充実の施設

8. 現地校との交流など

体験プログラムが豊富

9. 安心の医療体制

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム (現地フィールドワーク等)

◆2045年「100%再生可能エネルギー」の目標達成のために

世界レベルで取組が進んでいる再生可能エネルギーですが、ハワイはその「未来の実験場」として注目されています。ハワイ州は、2045年までに消費電力の100%を再生可能エネルギーで賄うことを州法で定め、再生可能エネルギーの導入や普及に積極的に取り組んでいます。マウイ島では、安定した電力供給を目指す日米共同のスマートグリッドの実証事業が行われており、先端産業の現場視察を行うことができます。

学校や企業等訪問

◆ハワイでの社会貢献活動

■農業・水産業

持続可能な農業希少種として世界的にも有名なコナ・コーヒーをはじめ、ハワイでは農業が盛んです。特にハワイでは自然 (大地) を大切にする文化 (Aloha 'Āina=アロハアイナ) が根づいているため、環境保全に深く関わるオーガニック農業や地産地消の考えが広く浸透しています。ある一定の基準を満たしたハワイ産農産物を認定するハワイ州農務局の「シールズ・オブ・クオリティ」はその一例です。視察可能な農園も多いほか、収穫したての野菜やフルーツが並ぶ「ファーマーズ・マーケット」も身近にハワイの農業や生活に触れられる機会として人気を集めています。また水産業では、ハワイ島で豊富なミネラルを含む海洋深層水を使ったアワビ、ロブスターやカキなどの養殖が行われています。

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム (現地フィールドワーク等)

◆社会貢献 SDGs

ビーチクリーニング: 美しいグアムのビーチを後世に残すための活動として、学校単位で実施することも可能ですが、定期的に行われているビーチクリーニングの活動に参加することもできます。時間は1時間半から2時間程度。環境保護の意義、大切さを学べます。

Guam Green Growth (G3) 活動: アイランド美化、ボランティア活動に参加して学べます。



◆水族館での海洋生物学学習プログラム

アンダーウォーターワールド: 水族館の裏側見学、サメやサンゴ礁、ウミガメなど、海洋生物の生態系や環境保護について飼育員と教育チームが考案した様々な学習プログラムが用意されています。



● 基本情報

国・地域名：カナダ
 英語名：Canada
 主要都市：オタワ(Ottawa)
 言語：英語、フランス語(公用語)
 査証：最大6ヵ月以内の観光は査証不要。
 電子渡航認証 eTAの取得が必要。
 パスポート残存有効期間：カナダ出国予定日+1日以上

● 教育プログラムの特徴やポイント

多種多様な文化が混在しており、豊かで美しい自然や安心して学べる環境が整っています。海外修学旅行や語学研修などに最適な国といえます。

1. 訪問者に対しフレンドリーな人々が多く安心
2. 広大な国は見るべきものが豊富
3. 人種や性別、宗教などに関係なく互いを尊重し合う風土
4. 多文化共生を学べる
5. 高い教育水準を実感できる



● 基本情報

国・地域名：オーストラリア連邦
 英語名：Commonwealth of Australia
 主要都市：キャンベラ(Canberra)
 言語：英語
 査証：必要 観光ETA(3ヵ月以内滞在可能)の登録が必要。
 パスポート残存有効期間：帰国時まで有効なもの(ETAの場合)

● 教育プログラムの特徴やポイント

異文化体験や現地生徒・コミュニティとの交流はもちろんのこと、グローバル人材育成やSDGsなど、特定の学習テーマにおける知識を伸ばすこと、またその体験に焦点を当てたプログラムが豊富にあります。

1. 時差はわずか2時間以内
2. 1年を通じて温暖
3. 豊かな自然と世界遺産
4. 英語が母国語
5. 多民族・多文化国家
6. 世界有数の親日国
7. 意外に近いオーストラリア
8. 安全でフレンドリー

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム（現地フィールドワーク等）

◆シティ滞在型プログラム(2～3週間)

シティ滞在型プログラムは、世界でも高水準の語学学習を提供しています。都市生活を好み、新しい文化について学び、世界中からの同じように参加している若者と関わり合いを持ちたいと思っている若者にピッタリです。様々な場所の選択があり、大学のキャンパスを拠点として、カナダで最も優れた学校の設備を利用することができます。専門的で知識豊富なスタッフが、フォーマルでありながら楽しくコミュニケーションが取れるクラスの雰囲気の中で、英語を学ぶことができます。一日または半日の小旅行を通してコミュニティの素晴らしさを紹介し、楽しく安全で示威に富むアーバンライフを経験することができます。



◆国連 世界を変えるための17の目標SDGs

SDGsを達成するためにカナダと日本がそれぞれ行ってきたことについて学びます。様々なアクティビティの中から希望のテーマに沿ったものを選ぶことが可能で、生徒が自らの行動を振り返り、社会問題や環境問題について論理的に考えることができるよう構成されています。

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム（現地フィールドワーク等）

◆タスマニア州

目的によってオーダーメイドのプログラムを作ります。現在行っているスタディツアーはタスマニアの自然を生かした環境科学、サステナビリティに焦点を当てた、リサーチ、フィールドワークが含まれた多彩なプログラムです。



学校や企業等訪問

◆南オーストラリア州

日本の高校や生徒のそれぞれのレベルや希望に合わせた、より学習効果の高いプログラムの提供に努めているため、基本的に全てのプログラムはオーダーメイドとなります。南オーストラリア州政府日本事務所が学校のご相談内容、ご希望に沿ったパートナーやプログラムをご提案します。



United Kingdom

イギリス

● 基本情報

国・地域名：グレートブリテン及び北アイルランド連合王国
 英 語 名：United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
 主要都市：ロンドン(London)
 言 語：英語公用語は英語。他にゲール語、ウェールズ語、スコットランド語など。
 査 証：6ヵ月未満の滞在は原則査証不要
 パスポート残存有効期間：帰国時まで有効なもの。

● 教育プログラムの特徴やポイント

イギリスは英語を学ぶ場所として世界で最も人気のある国です。英語学習市場の約50%ものシェアを誇り、毎年推定70万人の留学生在が英語を学ぶためにイギリスを訪れています。イギリスの文化、歴史に実際に触れて得た発見は将来への貴重な財産になります。

1. 豊かな歴史と文化
2. 世界中から集まる留学生
3. 安全性
4. 国内、欧州内への抜群のアクセス
5. 世界トップレベルの大学

● 主な教育プログラムのご紹介

中高生英国英語留学プログラム

中高生英国英語留学プログラム(ブリティッシュ・カウンシル認定限定)では、Accreditation UK認定校54校から提案されたコースのうち、安全性、価格の適切さ、ユニークさ、地域の4項目を基準に厳選された、9校のコースが推進されました。各コースは、JAOSに加盟する9つの留学エージェント各社により、2017年7～8月に1～4週間の日程で提供されました。単なる語学学習だけでなく、ボーディング・スクールの寮での宿泊、名門大学での学生生活体験、ゲームを取り入れた授業など、ユニークな内容も特長です。

■伝統あるケンブリッジ大学キャンパスで学ぶ

- ・ 伝統あるケンブリッジ大学のキャンパスライフを体験できます。
- ・ 日本人が比較的少ない環境で、存分にイギリスの生活を満喫することができます。

■名門ロンドン大学で学生生活体験を模擬体験

- ・ 40年以上の歴史を持つロンドンの老舗語学学校「Frances King School of English」が主催するサマーキャンプ。
- ・ Heythrop Collegeは70の個室を備える小さなカレッジで、サポートは24時間体制。教師及びサポートスタッフと生徒の比率は、キャンパス内で最小1対6(アクティビティの際は1対12)で、きめ細かいケアが提供されます。

■学生の街オックスフォードで学びながらホームステイ体験

- ・ ロンドンから約1時間の大学の街オックスフォードにある1979年設立の小規模でアットホームな語学学校が運営します。
- ・ ヨーロッパからの学生が多く、授業やアクティビティを通じて様々な国の学生と交流ができます。
- ・ 毎週日曜日出発、期間も1週間から4週間までを選ぶことができます。

Singapore

シンガポール

● 基本情報

国・地域名：シンガポール共和国
 英 語 名：Republic of Singapore
 主要都市：シンガポール(Singapore)
 言 語：英語(共通語)、マレー語、中国語(北京語)、タミール語
 査 証：30日以内の観光は査証不要
 パスポート残存有効期間：入国時6ヵ月以上

● 教育プログラムの特徴やポイント

熱帯雨林を題材にしたり、最先端の自然科学的な知見を取り込んだ博物館、水族館、植物園、動物園等を活用することもでき、質の高い各種自然教育プログラムが用意されています。

1. 学びに専念できる最適な環境
2. 条件に恵まれた質の高い教育
3. 多彩で良質な教育プログラム

● 主な教育プログラムのご紹介

現地青少年との交流

◆シンガポールB&Sプログラム

B&Sとはブラザー&シスタープログラムの略で、班別行動の際に現地生徒と日本の生徒がチームを作って、行動するプログラムです。研修場所を生徒達で決め、生徒達のプランニング能力・リサーチ能力を磨きます。現地生徒との交流で実戦の英会話力を身につける事ができ、多人種が混在して生活するシンガポールの文化に触れる体験となります。最大人数：240～360名程度、現地学生は最大40～50名程度アレンジが可能。1班あたり現地学生1名に対し4～6名が理想的です。事前に各班ごとに当日の市内研修コースを計画します。

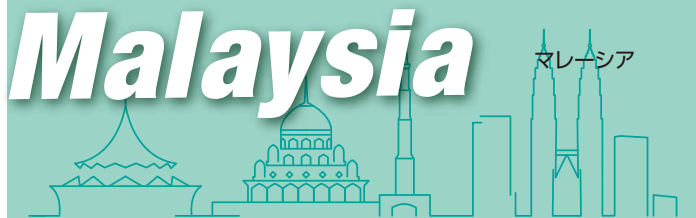
探究型学習プログラム(現地フィールドワーク等)

◆水問題の解決策を知る

◆緑化政策

ガーデンシティからシティ・イン・ア・ガーデンへ
 (持続可能な開発などを学ぶ)





● 基本情報

国・地域名：マレーシア
 英語名：Malaysia
 主要都市：クアラルンプール (Kuala Lumpur)
 言語：マレー語 (国語)、中国語、タミル語、英語
 査証：90日以内の観光は査証不要
 パスポート残存有効期間：入国時6か月以上

● 教育プログラムの特徴やポイント

多民族国家のマレーシアでは、それぞれの文化・宗教を保ちつつ、互いに敬意を払うという、文化の多様性を身をもって感じる事が出来ます。

1. 安心・安全な環境
2. 旅費・滞在費が割安
3. 近くて時差も最小限なので安心
4. 整った英語環境
5. 豊富な体験学習素材

● 主な教育プログラムのご紹介

現地青少年との交流

◆ホーム(カンボン)ステイ/ビジットプログラム

自然が豊かなマレーシアでは、首都クアラルンプールですら車で1時間程離れば、のどかな田舎の風景が広がります。特に田舎(マレーシア語ではカンボンと呼びます)ではいまだ大家族が多くを占め、人々との繋がりが大切に育まれています。そのカンボンを訪し、大家族の家庭に滞在しながら、その地域の文化を体験し、家族の人と家庭料理を頂くことで日本では体験できなかった大家族の温かみを感じたり、異文化を体験できます。

カンボンステイが、可能なエリアはマレーシア全土に357村。宿泊または訪問が可能な家庭が4,025軒、部屋数は5,650室登録されています。訪問可能なカンボンはすべて、マレーシア観光芸術文化省の基準をクリアした村です。そのため、衛生面も安心です(※感染症防止対策の確認は別途必要)。

学校や企業等訪問

学校訪問・交流は、人気のプログラムです。最近ではインターネットの普及により、生徒同士が事前にメールで情報交換、その上で現地で対面、というスケジュールを組むことができ、親睦をより深めることができます。異なる文化を持つもの同士が通じ合えるという体験は、国際感覚を養う上で非常に貴重なものになるでしょう。

マレーシアの学校では積極的に交流を受け入れています。公立校は教育省を通じて依頼をする必要があります(学校に直接依頼は原則不可)。観光省管轄の為、現地旅行会社を通じて教育省へ依頼してください。私立校は学校と直接やり取りが可能です。

● 主な教育プログラムのご紹介

探究型学習プログラム(現地フィールドワーク等)

◆農業体験

米や果物を作っている農家、鶏舎、その時期に作っているものを見学をし、農家の方に話を聞きます。体験の場合も季節や人数により異なりますが、稲の苗の準備、田植え、米やフルーツの収穫などのプログラムがあります。(ホーチミンより90分)



◆アオザイ教室

(UNIVERSITY OF TECHNICAL EDUCATION HO CHI MINH CITY)



2日間コースで、有名なアオザイを生地から作ります。経験のない人でも一から作成し、コース終了時にアオザイを受け取れます。教室は大学内にあり、2日間キャンパスライフを送ることができます。



● 基本情報

国・地域名：ベトナム社会主義共和国
 英語名：Socialist Republic of Viet Nam
 主要都市：ハノイ (Hanoi)
 言語：ベトナム語(主要言語)
 査証：15日以内の観光は査証不要
 パスポート残存有効期間：出国時6か月以上

● 教育プログラムの特徴やポイント

日本では経験できない多様性を感じ、成長途上にあるベトナム経済に触れることでグローバル化を知るきっかけとなります。

1. ベトナム戦争の爪痕を残しており、平和学習に最適
2. ハロン湾、古都フエ、ホイアンなどの世界遺産が豊富
3. 治安・衛生なども整備され安心感
4. 親日国であり、日本との教育交流にも熱心
5. 自然に恵まれ、植林体験などのエコ学習に最適
6. 政治体制の比較ができる

安心・安全対策と 新型感染症などへの対策



海外修学旅行で最も注意すべきなのは生徒の安全の確保です。これまでも、生水を飲むことへの注意やマラリアなどの感染症への注意喚起、多くの国・地域では医療費が非常に高額となることへの防止対策、頻繁におこる盗難などへの注意など数多くの注意事項が指摘されてきましたが、2020年以降の渡航にあたっては、新型コロナウイルス感染症への対策が大きな課題となっています。

これらに対しては、日本国内での対策指針と渡航先の決まりごと双方を調査し、正しい情報のもとで計画を立てる必要があります。こうした対策や規制は刻々と変化する場合があるので、常に最新の情報を得るようにしてください。

【外務省海外安全ホームページ】

国・地域別海外安全情報 <https://www.anzen.mofa.go.jp/riskmap/>

海外留学/海外修学旅行 <https://www.anzen.mofa.go.jp/study/>

【新型コロナウイルス感染症に関する情報取得先】

中国	駐日中国大使館／渡航前検査及び健康コード申請の最新措置について http://www.china-embassy.or.jp/jpn/lszc/202202/t20220218_10643342.htm
韓国	韓国観光公社／韓国安全旅行ガイド https://japanese.visitkorea.or.kr/jpn/AKR/AK_JPN_2_COVID.jsp
台湾	公財)日本台湾交流協会／COVID-19に関する最新情報 https://www.koryu.or.jp/tabid2169.html
アメリカ合衆国	アメリカオフィシャルトラベルサイト／アメリカ新型コロナウイルス感染症に関する旅行ガイドライン https://www.gousa.jp/us-covid-19-travel-guidelines
ハワイ(アメリカ)	ハワイ州観光局／ハワイへのご旅行を計画されている皆様へ(新型コロナウイルス情報) https://www.allhawaii.jp/covid19/
グアム(アメリカ)	グアム政府観光局／グアムのCOVID-19に関する最新情報 https://www.visitguam.jp/
カナダ	カナダ観光局公式サイト／COVID-19関連の旅行者向け情報 https://jp-keepexploring.canada.travel/covid-19-traveller-guidance
オーストラリア	オーストラリア政府観光局／渡航時の新型コロナウイルス感染症と出入国の状況について https://www.australia.com/ja-jp/travel-alerts/coronavirus.html
イギリス	英国政府観光庁／行く前に知っておこう https://www.visitbritain.com/jp/ja/know-you-go-xing-kuqian-nizhi-tuteokou
シンガポール	シンガポール政府観光局／シンガポール短期渡航者のための旅行要件 https://www.visitsingapore.com/ja_jp/travel-guide-tips/travel-requirements/
マレーシア	マレーシア政府観光局／重要なお知らせ https://www.tourismmalaysia.or.jp/
ベトナム	ベトナム航空／Covid-19>フライト前の準備>国内の旅行規制 https://www.vietnamairlines.com/jp/ja/covid-19/chuan-bi-truoc-chuyen-bay/hanh-trinh-noi-dia

実施事例のご紹介

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、現在まで大人数の生徒が移動するタイプの海外教育旅行はほぼ不可能となっております。以下のページでは、その直前までに行われた実施事例を紹介し、どのようなことが行われていたかを参考としていただき、その上で各国・地域の感染症対策などに留意して計画することをお勧めします。



1 ハワイ事例(公立高等学校)

2019年訪問 ハワイ

旅行概要

旅行目的	修学旅行
対象	高校2年生約100名
期間	2019年12月

教職員からのコメント

本校では2年生をハワイへ行かせています。修学旅行では、語学体験、異文化理解・交流、社会に出る前の国際経験を身につけるといったことその他、普段の生活とは全く違う体験(航空機に乗る・海外へ行く・外国の人と話す)による刺激も期待しています。現地では、日本語の堪能な現地大学の学生たちと交流を行っていますが、事前に、生徒の語学力によるチーム分けを行い、各チームのレベルに合わせた対応をしてくれます。そこでは教師が思うより積極的にコミュニケーションをはかる生徒の姿や、将来の進学や進路として国際関係を考えている生徒にとって後押しになるような経験ができている様子がうかがえ、成果を感じます。学校HPに旅行中の様子などを都度アップし、家を離れることにより精神的に不安定になりがちな生徒の保護者には個別にメールでフォローするなどの配慮をしています。



主なプログラムとその特徴

◆プロジェクトパラダイス活動

- ◆現地大学において、伝統的なハワイの文化・食・歌・服飾のほか、現代的な文化も含めて様々なライフスタイルに触れる体験をした。
ハワイのアイランダーとの交流を目的に、継続的に行われている。
- ◆事前に、日本の生徒の語学力によるチーム分けを行い、各チームのレベルに合わせて現地大学の学生が対応してくれる。現地大学の学生は日本語も堪能なため、万全な態勢で受け入れてくれた。

2 マレーシア事例(公立高等学校)

2019年訪問 マレーシア

旅行概要

旅行目的	修学旅行
対象	高校2年生約180名
期間	2019年11月

教職員からのコメント

行先は毎年見直し、今回は保護者へアンケートを行い、オーストラリア・マレーシア・沖縄の中からマレーシアに決定し訪問しました。安価な費用も一因と思われます。海外教育旅行の目的や期待は語学研修と「異文化」に触れる体験としていますが、大半の生徒が航空機への搭乗経験がないため、そうした機会をつくることも目的としています。しかし、新たにパスポートを取得することで旅行代金以外の出費があることや取得の時間捻出も難しく、また一部には今後必要ないという生徒もいるなかで、保護者への説明や説得が課題になりました。現地では農村体験学習を行い、村民とコミュニケーションをとりながら異文化を体験することにより、貧困や格差などを実感する機会も多く、日本には無かった昔の日本の原風景を体感することもできました。



主なプログラムとその特徴

◆カンポンステイ

- ◆マレーシアの郊外に赴き、村民とコミュニケーションをとりながら、伝統的な遊びや家庭料理、工芸品づくりを体験した。
- ◆マレーシアの伝統的な生活に触れるとともに、異文化交流を行った。



3 ベトナム事例(公立高等学校)

2019年訪問 ベトナム

旅行概要

旅行目的	修学旅行
対 象	高校2年生約290名
期 間	2019年12月

教職員からのコメント

ベトナムを選定した決め手は「親日」と「物価」です。本校は原爆爆心地に近いこともあり、平和教育には特に熱心に取り組んできました。その点においてリアルな教育素材があるホーチミンに以前は行っていましたが、日本からの訪問が集中したこともあり、行先をハノイに変更しました。訪問前はベトナム(東南アジア諸国に関して)に対してほとんどの生徒が「日本より遅れている国」という認識を持っていますが、実際に行ってみると国の若さ、勢いと活気といった「生きるちから」を体感し、人々が持つエネルギーに圧倒されるようです。その空気を肌で感じる事がこの旅行の一番の収穫だと感じます。また、生徒たちが一番楽しんでいるのは、現地の高校生との学校交流のようで、K-POPなどの話題で盛り上がる様子がみられます。



主なプログラムとその特徴

◆高校訪問

- ◆ 生徒有志による実行委員会を立ち上げて、学校交流の意義などを伝えた。
- ◆ 披露する出し物の企画、持参する土産作り、また全体だけでなく班別交流で行うことについても具体的に考えて準備した。
- ◆ オープニングセレモニーでは書道パフォーマンスやダンスパフォーマンスを披露。生徒同士のグループ交流では、クイズや地域・文化についての質問を相互に行い、親交を深めた。

4 カナダ事例(公立高等学校)

2019年訪問 カナダ

旅行概要

旅行目的	修学旅行
対 象	高校2年生約190名
期 間	2019年10月

教職員からのコメント

修学旅行の行先は当初は近場の韓国、中国でしたが、その後英語教育の観点から、時差の少ない国々を経て、今はカナダという状況です。保護者の中には、ホームステイに関して様々な心配がありますが、保護者対象の説明会を複数回行うとともに、場合によっては個別対応も行っています。ホストファミリーの選出についての質問も仲介している旅行会社経由で、回答をもらい、保護者に説明しています。海外教育旅行は「事前の準備等が大変」、「旅行中のリスクが心配(国内のようにはいかないなどの不安)」といったマイナス面もありますが、例えば英語検定試験の受験者数や、海外の大学進学を希望する生徒数が増加しているなど「生徒の変化が目に見える」という効果を実感していることから、前向きに取り組む意義を感じています。



主なプログラムとその特徴

◆ホームステイ

- ◆ 生徒たちは各家庭に分かれて、ホームステイし、国際交流を図った(1家庭に2~3名の生徒)。
- ◆ 家庭による違いはあるがホストファミリーごとに様々な工夫をしてくれた(例:船で出かけるホストもいれば、コンパクトな住宅のホストも)。
- ◆ コミュニケーションを図る中で、生徒たちが自身の語学力を知る機会になった。

5 オーストラリア事例(公立高等学校)

2019年訪問 オーストラリア

旅行概要

旅行目的	研修旅行
対象	高校2年生約90名
期間	2019年10月

教職員からのコメント

海外については、従来からの「語学研修」にあるような本場での「語学体験」、「国際交流」、「異文化理解」などが主な目的でしたが、最近では教育課程の変化を受けて「発見した課題」を「データや分析で立証」し、「課題解決」といった内容で実施しています。本校ではこうした課題学習的な内容を、大学や社会の動きを見ながら文科省の改訂に先んじて実施してきました。現地では、シドニー市内の視察を通し、班ごとに定めた目標から課題学習を行い、帰国後に事後学習として新聞にまとめ、また旅行全般を通じてレポートを作成して発表会で共有しています。こうした体験や経験をさせることにより、生徒の将来的な可能性を育むであろうことを期待しています。



主なプログラムとその特徴

◆探究型プログラムin海外

- ◆ シドニーでの班別研修:「日本との違いを発見」して新聞を作成した。
- ◆ 旅行全般を通じた個別レポートを作成
- ◆ 探究型プログラムの成果発表会では、課題解決策等についての発表を行うため、それに向けたフィールドワークや情報収集など旅行の全行程を通じて実施した。

6 アメリカ事例(私立高等学校)

2020年訪問 アメリカ

旅行概要

旅行目的	研修旅行
対象	高校2年生約50名
期間	2020年2月

教職員からのコメント

本校では「21世紀を生き抜く力」を備えた生徒を育成すべく、新たなカリキュラムをスタートいたしました。その取組のひとつとして「探究型SDGsスタディツアー」と名付けた教育研修旅行を行っています。これまでの受身型の修学旅行とは一線を画し、生徒の主体性・興味関心をもとに自らが主体的にコースを選択し、探究を進めていくのが最大の特徴です。行先は海外・国内の複数の訪問先から生徒がクラスに関係なく個々の希望でコースを選択し、先端企業・国際機関・教育機関などを訪れる他、海外全コースにおいて「現地の方々との交流・日本文化の披露」を行っています。日本の事をほとんど知らない人に対しても日本を理解し好きになってもらう事で諸外国との良好な関係の構築の一助になっている他、SDGsのゴールNo.4「質の高い教育をみんなに」に貢献しています。



主なプログラムとその特徴

◆交流プログラム及びグローバル・キャリア・プログラム

- ◆ 事前学習で準備した日本文化の紹介・日米クイズ大会・日本の伝統的な遊びを用いて、現地の大学生と交流した。
- ◆ 現地の企業を訪問し、インタビューを行った。
- ◆ ニューヨークで働く日本人から働き方についての話を聞いた。
- ◆ その場でコミュニケーションをするだけにとどまらず、生徒が自らの将来ビジョンを考える機会につながる内容とした。

7 イギリス事例(私立中・高等学校)

2019年訪問 イギリス

旅行概要

旅行目的	研修旅行
対象	中・高校生約60名
期間	2019年8月

教職員からのコメント

以前から米国研修等、海外への教育旅行を行っています。この10年では英米の大学にも学びの場を広げ、アカデミックなコースを設定、ホームステイ中心のコースも加え、現在、高校では英国など4か国6コースを設け、希望者が参加しています。プログラムの充実が我が校の自負であり、英米の一流大学の学生や卒業生から直接学ぶという機会を提供し、単なる海外旅行ではなく、前後の学びも含め約1年間の取組として設定しています。10日余り見知らぬ異国で生活する体験を通し、「英語に触れる・学ぶ」より、「英語で何をするか?」に重点を移し、自立心や達成感を養います。また、事前・事後学習を大切に、帰国後はレポートをまとめて全員分を冊子にし、翌年の下級生の参考にさせています。



主なプログラムとその特徴

◆大学研修による探究型プログラム

- ◆ グローバルリーダーシップをテーマに、現役大学生のアカデミックな生活スタイルを体験。一流の現地の学生たちが何をしているかを見聞きすることを重視。
- ◆ 演劇を通じて、イントネーション・アクセント・ボディランゲージのスキルを伸ばす等のプログラムに参加する。
- ◆ 特別な研究所を訪問したり、ソーラーカー製作などを見学し、大学でのアカデミックな生活を体験する。

8 韓国事例(私立高等学校)

2019年訪問 韓国

旅行概要

旅行目的	姉妹校交流
対象	高校2年生約20名
期間	2019年8月

教職員からのコメント

本校では選択科目として「韓国語」があり、韓国を訪問しています。以前は修学旅行として全員で行っていた時期もありましたが、5～6年前くらいからは希望者による選別メンバーで実施しています。目的はグローバル教育や国際理解といったものですが、特に韓国については、「距離的には近い。だが心理的には遠い国」という印象があるなかで、国と国に関する情報は多いものの、個と個の関係でお互いを知る大切さを学んでほしいという想いもあります。政治的な状況の影響もあり、行くまでは不安を感じる生徒も少なくありませんでしたが、全体を通じて現地での歓待ぶりに、個人と個人の交流の楽しさ、信頼関係の尊さを理解してくれて、嬉しいと感じています。



主なプログラムとその特徴

◆授業参観

- ◆ 小人数に分かれて姉妹校の授業参観。各クラスとも歓迎の気持ちを表す日本語で「ようこそ」「かわいい」等の板書や日本のアニメ・菓子などの用意があり、生徒同士が打ち解けるのに時間はかからない。
- ◆ 韓国の姉妹校では日本語のカリキュラムがあり、日本語が堪能な生徒もいて、ミニ通訳のような役割も果たしている。

おわりに

2022年桜の咲く季節、ようやく新型コロナウイルス感染症拡大による渡航規制に対して、世界の扉が徐々に開かれようとしています。一方、国際情勢は必ずしも安定しているとは言い難い状況です。

しかしながら、発展したデジタル技術をベースに、距離や国境を越えた交流はSNSなどを通じて盛んに行われています。

こうした状況にある今こそ、次世代を担う若い人材には、積極的に海外を見て、感性を磨き、国際感覚や異文化理解力を身につけて社会に巣立ってほしいと考えます。そのためにも、教育に携わる先生方、旅行関連の事業者の方におかれましては、常に最新の情報を正しく吸収し、分析・判断する能力を発揮していただき、多くの生徒に、世界の素晴らしさの発見、外国人との交流などの実体験を安全に得ることができるよう努めていただければ幸いです。また、社会全体でそうした青少年の体験を支援し、協力していくことが望ましいと考える次第です。



関係機関の公式サイト一覧

今回ご紹介した受け入れ国・地域の関係機関の情報および国内関係団体の情報を下記にまとめました。海外教育旅行を検討する際の参考にご利用ください。



各国・地域の関係機関

国・地域	各国・地域観光公式サイト	URL
中国	中国駐大阪観光代表処	http://www.cnta-osaka.jp/
韓国	韓国観光公社公式サイト 韓国教育旅行ガイド(2019年)	https://japanese.visitkorea.or.kr/jpn/index.kto https://japanese.visitkorea.or.kr/jpn/SEV/tokyo.jsp (資料請求先)
台湾	台湾交通部観光局サイト 台湾教育旅行マニュアル(2015年)	https://jp.taiwan.net.tw/ https://jp.taiwan.net.tw/m1.aspx?sNo=0024368 (資料請求先)
アメリカ合衆国	アメリカオフィシャルトラベルサイトGoUSA	https://www.gousa.jp/
ハワイ(アメリカ)	ハワイ州観光局公式ポータルサイト ハワイ教育旅行ガイド(2016年)	https://www.allhawaii.jp https://www.allhawaii.jp/docs/ebook/educatioal_travel_guide/ (電子ブック閲覧ページ)
グアム(アメリカ)	グアム政府観光局公式サイト グアム教育旅行ガイド(2018年)	https://www.visitguam.jp/ https://www.visitguam.jp/travel-trade/education/ (PDFダウンロードページ)
カナダ	カナダ観光局公式サイト 2022	https://jp-keepexploring.canada.travel
オーストラリア	オーストラリア政府観光局 オーストラリア教育旅行ハンドブック(2018年)	https://www.australia.com/ja-jp/ https://tourism-au.sakura.ne.jp/travel/download (PDFダウンロードページ)
イギリス	英国政府観光庁	https://www.visitbritain.com/jp/ja
シンガポール	シンガポール政府観光局	https://www.visitsingapore.com/ja_jp
マレーシア	マレーシア政府観光局 マレーシア教育旅行ガイド(2018年)	https://www.tourismmalaysia.or.jp https://www.tourismmalaysia.or.jp/pamphlet/index.html (PDFダウンロードページ)
ベトナム	ベトナム観光総局サイト	https://vietnam.travel/jp/node/1336

日本国内の関係団体

公益財団法人全国修学旅行研究協会	http://shugakuryoko.com/
公益財団法人日本修学旅行協会	https://jstb.or.jp
一般社団法人日本旅行業協会 旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに 基づく海外教育旅行の手引き(第2版)	https://www.jata-net.or.jp https://www.jata-net.or.jp/membership/jata-corona/membership06_01/2022_educationaltravelguide/

掲載のURLは、発信元の都合により、リンクされないなどの場合もございます。ご了承ください。



【問合せ】

観光庁 参事官（旅行振興）

TEL：03-5253-8111

海外教育旅行のすすめ 観光庁 検索

